

バヨのマーブルラン3タワー組み立て説明書

2017.11

対象年齢

3歳ごろ～

① 注意 必ず事前にお読みください。

- ・本製品はボール転がしの玩具です。目的以外での使用はしないでください。
- ・小さなパーツを含みますので、3歳未満のお子様には与えないでください。
- ・組み立てる際には、必ず大人の方が一緒に一緒に行ってください。
- ・長い棒が入っています。組み立てる際には周りに注意し、振り回したり、手に持ったまま歩き回るとしないでください。思わぬ事故やケガにつながる恐れがございます。
- ・天然木の特性上、湿度が高くなると木材が膨張し、パーツが組み立てづらくなる（はめる際に固く感じる）場合がございます。

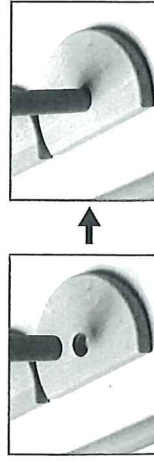
セット内容

- 土台プレート
 - ビーズをキャッチする溝入り×1
 - 溝なし×2
- 土台に取り付ける支柱×3
- すべり止めリング×8
- レールとなるバー×8
- 支柱とバーの固定用リング×8
- 方向転換パーツ×3
- ボール×4

組み立て方

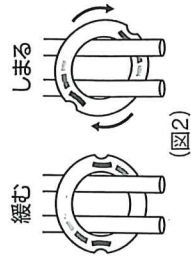
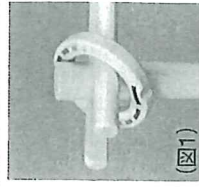
1 土台を組み立てる

土台プレートに、支柱をそれぞれ差しこみます。土台プレートの穴には抜けにくいよう、ゴム製のリングが入っています。少し固く感じますが、しっかりと支柱を回しながら差込んでください。組み立てたら、支柱が傾いていないか確認しましょう。



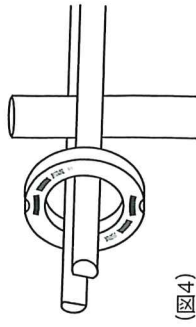
2 レールを組み立てる

- 支柱を挟むように2本のバーを組み合わせてレールを作ります。
- ボール転がしリングを支柱に通し、固定位置をマーキングしましょう。ボール転がしリングを支柱に通し、固定位置をマーキングしましょう。バーは、溝のある方が低い位置になるようセットします。
- 2本のバーを固定用リングに通します。両側にリングを通した状態で、それぞれ支柱に通します(図1)。固定用リングは楕円形をしているので、くぼみが支柱に対して垂直になるように持つことで、少し緩い状態で通すことができます(図2)。
- バーをすべり止めリングの位置まで下ろしたら、固定用リングを回して、しっかりと留めましょう(図3)。

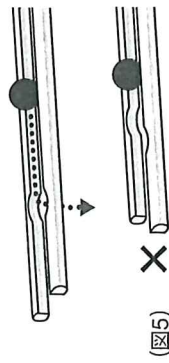


組み立てのポイント

- ・先記の組み立て方以外にも、2本のバーを固定用リングに通さずに、バーの端にリングを通して留めることもできます(図4)。
- ・このやり方をする、組み立て途中でレールの位置を調整しやすくなりますが、基本の組み立てに比べてバーの固定が少し緩くなります。そのため、ボールを転がしている間にレール位置が下がったり、移動させる際にレールが外れる場合があります。避ばれるお子様の対象年齢や状況に応じて使い分けてください。
- ・2本のバーにそれぞれついている溝は、組み合わせることによってボールが下に落ちる穴になります。溝の位置がずれるとボールがスムーズに落ちなくなってしまうので、組み立てる際に確認しましょう(図5)。
- ・レールの高低差が小さすぎると、ボールがスピードに乗らずうまく落ちない場合があります。すべてのレールを組み立てる前に、1つ1つでボールが下に落ちるか試してみてください。



(図4)

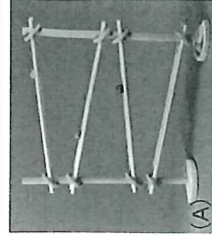


(図5)

3 コースをつくる

(A) 2タワーのコースをつくる

1. 土台の支柱を2本立てます。
2. ボールが転がるように、下から順にレールを渡していきます。
3. 土台までボールが転がってきたら完成です。



(A)

(B) 3タワーのコースをつくる

1. 土台を3本立てます。
2. ボールが転がるように、下から順にレールを渡していきます。
3. コースを行き来するには、方向転換パーツを使用します。図6のように設置することで、隣のレールにボールを渡すことができます。
4. 土台までボールが転がってきたら完成です。



(図6)

組み立てのポイント

- ・方向転換パーツはしっかりと留まるように、穴にゴム製のリングが入っています。少し固いですが、設置する位置までパーツを左右に回しながら下ろしましょう。ボールが落ちてくる方の溝が狭く、次に転がるコースに向かって溝が広くなるようパーツを設置します。
- ・コースの最後は、溝のある土台プレートを設置しましょう。ボールが落ちてきた時にキャッチャーの役割を果たしますので、レールの穴がキャッチャーの上に来るようセットしましょう。

